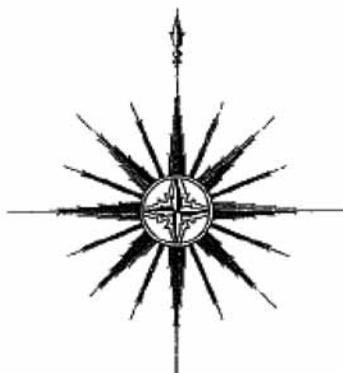


研究活動報告

(2014年4月～2015年3月)



凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書・論文、その他
- (3) 研究発表・講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

○文化財論講座

須藤 弘 敏

(1)現在の研究テーマ

- ・仏教絵画史、近世地方仏、文化政策

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・須藤弘敏・矢島新『かわいい仏像 たのしい地獄絵 素朴の造形』pp.16-101、pp.180-181、共著、2015年1月、PIE INTERNATIONAL

[論文]

- ・須藤弘敏「地方仏-青森・岩手から-」矢島新編『仏教美術論集第7巻 近世の宗教美術』pp.233-250、単著、2015年3月、竹林舎

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

[海外出張]

- ・26年12月1日～5日、アイルランド The Chester Beatty Library、経絵及び近世仏像調査のため

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (B)「在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信」(研究分担者) 2013～15年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- ・八戸市美術館館外講座「南部のかわいい仏像」、平成26年9月4日

杉山 祐 子

(1)現在の研究テーマ

- ・在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化 (FIH:Folk Innovation History, or LIH:Local Innovation History)、グローバル化の進展と「現金の社会化」、ジェンダー、北東北地域における小規模アグリビジネス

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・杉山祐子「青森県における農産物直売所と小規模アグリビジネスの可能性をめぐる研究への視角」(研究ノート)『地域社会研究科年報』弘前大学大学院地域社会研究科、単著、2015年3月

[その他]

- ・日曜随想 (陸奥新報)

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・「グローバル化するアフリカ農村と「現金の社会化」への視角」単独、日本アフリカ学会第51回学術大会、京都大学
- ・Farmers' Markets in a "Dual Economy" of Tsugaru, Aomori Prefecture, LONG-TERM SUSTAINABILITY THROUGH PLACE-BASED, SMALL-SCALE ECONOMIES, JSPS Symposium 2014年9月27日UC Berkeley

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・タンザニアドドマ州、現地調査、2014年8月～9月4日
- ・アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレー市、日本学術振興会サンフランシスコ支部主催シンポジウム、2014年9月25日～30日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (B)「グローバル化するアフリカ農村と現金をめぐる人類学的研究」(研究代表者) H25～H28
- ・基盤研究 (A)「アフリカ・モラル・エコノミーを基調とする農村発展に関する比較研究」(研究分担者) H23～H26

(7)共同研究、受託研究など

- ・共同研究：東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「人類社会の進化史的基盤研究(3)」

・受託研究：青森県集落経営活性化事業（地域社会研究科受託研究）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・日本アフリカ学会東北支部会2014年度例会、2015年2月
- ・地域未来創生センターフォーラム

[それ以外のもの]

- ・「グローバル化するアフリカ農村と現金をめぐる人類学的研究」課題研究会、宇都宮大学、2016年2月28日

宮坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- ・ローマ・カタコンベ、古代末期

(3)研究発表、講演

[講演]

- ・宮坂朋「都市の形～弘前と古代ローマ」地域未来創生塾、弘前文化センター第3会議室、2014年11月12日
- ・宮坂朋「ローマ美術の楽しみ方」弘前イタリア文化愛好会、弘前パークホテル、2014年4月18日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・文化財論講座主催岡田保良氏講演「さまよい始めた世界遺産－暫定リストの行方－」、弘前大学、2015年1月10日

山田 巖子(山田 巖子)

(1)現在の研究テーマ

- ・潜在的な宗教者、オシラ神、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・山田巖子・柴田彩子編『亀倉加久子オシンメイサマ資料集① オシンメイサマのお年越—喜多方市編—』pp.1-108、2015年3月、弘前大学人文学部

[その他]

- ・山田巖子編「6章 声とことば」民俗学事典編集委員会編『民俗学事典』pp.609-649、2014年12月、丸善出版
- ・山田巖子「声とことば」pp.609、「ことわざと新語」pp.628-629、「妖怪の声、妖怪の名前」pp.528-529 民俗学事典編集委員会編『民俗学事典』2014年12月、丸善出版
- ・山田巖子「津軽の人と暮らし⑧ 温泉と湯治－農閑期の休息と社交」『陸奥新報』2014年11月14日
- ・山田巖子「書評『イタコ 中村タケ』」日本口承文芸学会編『口承文芸研究』38号、pp.211-214、2015年3月
- ・山田巖子編『シンポジウム資料集 津軽の年占行事『七日堂祭』を考える』pp.1-23 2015年1月25日 弘前大学地域未来創生センター

(3)研究発表、公園など

[コメンテーター]

- ・山田巖子「シンポジウム 日本民俗と口承文芸」日本民俗学会 第876回談話会 於：國學院大学渋谷キャンパス 2014年9月14日

[その他]

- ・山田巖子「無形文化財の価値を地域とともに考える－七日堂祭をめぐる－」弘前大学地域未来創生センターフォーラム「青森県における新たな価値に基づく生き方モデル探求の基盤構築」於：弘前市民文化交流館ホール 2015年2月27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C)「潜在的な宗教者と知識の配置をめぐる民俗学的研究」(研究代表)平成26年度～28年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

- ・青森県民俗の会・弘前大学地域未来創生センター共催事業「公開シンポジウム 津軽の年占行事『七日堂祭』を考える」コーディネーター、弘前大学人文学部多目的ホール、2015年1月25日

関根 達人

(1)現在の研究テーマ

- ・縄文、中近世考古学、北方史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・関根達人『中近世の蝦夷地と北方交易』、単著、2014年11月、吉川弘文館
- ・関根達人「時代の論点新視点」『歴史学者による最新の時代解説（縄文時代）』「歴史ミュージアム」、関根達人編『朝日百科週刊日本の歴史』49号（旧石器・縄文）、pp.4-6,13-15,30-32、共著、2014年6月、朝日新聞出版
- ・関根達人「地域における近世大名墓の成立4－東北－」、大名墓研究会編『近世大名墓の成立』、pp.163-178、単著、2014年10月、雄山閣

[論文]

- ・関根達人「青森県における縄文時代の遺跡数の変遷」、『第四紀研究』、53巻4号、pp.193-203、単著、2014年8月
- ・関根達人「アイヌの宝物とツクナイ」『人文社会論叢—人文科学篇』32号、pp.1-26、単著、2014年9月
- ・柴正敏・関根達人「胎土分析からみた亀ヶ岡式土器の製作地-土器胎土に含まれる火山ガラスの帰属について-」、『考古学と自然科学』67号、pp.39-46、共著、2015年2月

[その他]

- ・関根達人「アイヌ社会における日本製品の考古学的痕跡」、『近世日本国会領域境界域における物資流通の比較考古学的研究（鹿児島大学教授渡辺芳郎科研（24520860）成果報告書）』、単著、pp.117-125、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・関根達人「近世考古学研究への取り組み－北方史と近世考古学－」、日本考古学協会第80回総会セッション、単独、日本大学文理学部、2014年5月17日
- ・Tatsuhito SEKINE、Population Change and Social Change in Northern Japan during the Jomon Period、日本学術振興会サンフランシスコ支部主催LONG-TERM SUSTAINABILITY THROUGH PLACE-BASED, SMALL-SCALE ECONOMIES、単独、University of California Berkeley、2014年9月27日
- ・関根達人「弘前藩津軽家墓所」『東北の大名墓研究の現状と課題』、第6回大名墓研究会、単独、弘前大学、2014年10月19日
- ・関根達人「考古資料からみた蝦夷地の内国化」、平成26年度九州史学会考古学部会、単独、九州大学、2014年12月14日

[講演]

- ・関根達人「大堀相馬焼の編年と流通」、平成26年度まほろん文化財講演会、福島県文化センター白河館（まほろん）、2014年6月14日
- ・関根達人「青森県の縄文遺跡と世界遺産への道のり」、平成26年度弘前大学公開講座、むつ市立図書館、2014年7月5日

(4)学外集中講義など

- ・平成26年度東アジア比較考古学研究Ⅱ集中講義「中近世考古学の方法」、九州大学、2014年12月9日～12日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・アメリカ合衆国カリフォルニア州パークレー市、出張、日本学術振興会サンフランシスコ支部主催シンポジウム、2014年9月25日～30日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（A）「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」（研究代表者）平成26～30年度
- ・基盤研究（C）「近世日本国会領域境界域における物資流通の比較考古学的研究」（研究分担者）平成24～26年度
- ・挑戦的萌芽研究「北海道・東北を中心とした交易圏形成に関する考古・歴史・文化人類学による総合的研究」（研究分担者）平成25～27年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・弘前大学「冷温帯の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト」平成23～27年度

足 達 薫

(1)現在の研究テーマ

- ・イタリア・ルネサンス美術史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・足達薫「パルミジャーノの〈カメリーノ装飾〉、あるいは鏡としての愛の噴水」金山弘昌責任編集、喜多村明里、京谷啓徳、足達薫、金山弘昌、望月典子『変身の形態学 マンテーニャからプッサンへ』pp.129-186、共著、2014年5月30日、ありな書房
- ・足達薫「ティツィアーノの《聖愛と俗愛》における観者、結婚、花嫁のセクシュアリティ」金井直監修解説、金山弘昌、足達薫、吉住摩子、金井直『女性の表象学 レオナルド・ダ・ヴィンチからカッリエラへ』pp.74-124、共著、2015年1月20日、ありな書房

(3)研究発表、講演

[講演]

- ・足達薫「出産・誕生のイメージに見るルネサンスの都市生活」弘前大学生涯学習教育研究センター事業三沢市連続講演会「世界をちょこつとのぞいてみよう」、三沢市総合社会福祉センター、2014年10月10日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C)「マニエリスムの時代の眼：ジュリオ・カミッロの美術論の再構成に基づく」平成22～26年度

上 條 信 彦

(1)現在の研究テーマ

- ・先史時代の生業（農耕を含む）、技術、交易の研究、青森県の考古学研究史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・上條信彦『亀ヶ岡文化の低湿地遺跡 秋田県戸平川遺跡、青森県亀ヶ岡遺跡・石郷遺跡群・八幡崎(1)遺跡・羽黒平(3)遺跡ボーリング調査報告書』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター、272頁、2014年
- ・田中克典・上條信彦編『日本の出土米』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター、313頁、2014年
- ・片岡太郎・上條信彦編『亀ヶ岡文化の漆工芸 I 青森県板柳町土井(1)遺跡漆製品の自然科学・保存科学的研究』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター、75頁、2014年

[論文]

- ・上條信彦「縄文時代石皿・台石類、磨石・敲石類の検討」『人文社会論叢－人文科学篇』31号、pp.15-39、2014年、弘前大学人文学部
- ・片岡太郎・上條信彦・鹿納晴尚「宮城県大崎市根岸遺跡出土藍胎漆器の製作技法：X線CT分析を使った構造調査」『東北歴史博物館研究紀要』16号、pp.53-58、2015年、東北歴史博物館
- ・石川隆二・宇田津徹朗・松田隆二・田淵宏明・田中克典・上條信彦「イネ種子の形態およびDNA配列からみた東北における水稻農耕受容の検討」『考古学と自然科学』67号、pp.57-72、2015年、日本文化財科学会
- ・氏家良博・相澤武宏・川村啓一郎・安田創・上條信彦「石油地質学からみた遺跡出土アスファルトの原産地推定」『考古学と自然科学』67号、pp.47-56、2015年、日本文化財科学会
- ・片岡太郎・上條信彦・柴正敏「青森県板柳町土井(1)遺跡出土漆器類の材質同定と製作技術の解明」『考古学と自然科学』67号、pp.7-27、2015年、日本文化財科学会
- ・上條信彦「亀ヶ岡文化研究の現在」『考古学と自然科学』67号、pp.3-6、2015年、日本文化財科学会
- ・亀井翼・小岩直人・上條信彦「秋田県中山遺跡（縄文時代後晩期）の自然形成過程（予報）（その2）—弘前大学調査地点A区を対象として—」『第四紀研究』53(5)号pp.241-248、53(5)号pp.241-248、2014年、日本第四紀学会
- ・氏家良博・渡邊世梨華・相澤武宏・上條信彦「縄文遺跡出土アスファルトの原産地推定」『石油技術協会誌』79(4)、p.247、2014年、石油技術協会
- ・氏家良博・上條信彦「弘道館記碑のダボから検出した黒色物の分析」『東日本大震災に伴う弘道館記碑等の復旧事業報告書』pp.103-109、2014年、文化庁文化財部記念物課

[その他]

- ・上條信彦「2013年縄文時代関係文献目録」『縄文時代』25号、pp.199-288、2014年、縄文時代文化研究会

- ・田中克典・上條信彦「コメのDNA分析からわかること」『大おにぎり展』p.39、横浜市歴史博物館
- [受賞]
- ・村越潔賞、青森県考古学会、2014年6月21日
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- ・氏家良博・上條信彦「遺跡出土アスファルトの原産地を探る」地学団体研究会総会68th、佐賀大学、2014年8月21日
- ・堀内晶子・宮田佳樹・上條信彦「脂質分析から観えてきた青森県今津遺跡出土縄文土器の用途」日本文化財科学会大会31st、奈良教育大学、2014年7月5日
- ・片岡太郎・上條信彦「秋田県南秋田郡五城目町中山遺跡出土漆器類の材質・技法研究」日本文化財科学会大会31st、奈良教育大学、2014年7月5日
- ・宮田佳樹・堀内晶子・上條信彦「土器残存有機物を用いた縄文時代晩期亀ヶ岡文化圏、内陸性杉沢遺跡の食性復元」日本文化財科学会大会31st、奈良教育大学、2014年7月5日
- ・亀井翼・小岩直人・上條信彦「秋田県南秋田郡五城目町中山遺跡の自然形成過程」『第43回 日本第四紀学会』東京大学、2014年08月22日
- [講演]
- ・弘前大学ドリーム講座「縄文人時代の食生活」三本木高校、2014年10月9日
- (4)学外集中講義など
- ・東北大学大学院文学研究科「文化財科学特論（先史時代の生業研究）」2014年8月
- ・東北大学文学部「考古学各論（先史時代の生業研究）」2014年8月
- ・放送大学「縄文遺産から食を探る」2014年11月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- ・若手研究（B）「先史時代東日本における食料加工技術の研究」（研究代表者）2012～15年度
- ・基盤研究（B）「北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究」（研究分担者）2014～17年度
- ・文部科学省特別研究「冷温帯地域の遺跡資源の保存活用促進プロジェクト」2010～15年度
- (7)共同研究、受託研究など
- ・受託研究「先史時代における資源動物利用戦略の解明」（上條信彦）2014～2015年度
- ・共同研究「佐藤コレクション出土米の分析」（上條信彦）2013～2015年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- ・弘前大学人文学部北日本考古学研究センター企画展「東北の弥生化 縄文時代が変わるとき」弘前大学人文学部北日本考古学研究センター展示室、2014年10月18日～11月24日
- ・特別公開『成田コレクション』弘前大学人文学部北日本考古学研究センター展示室、2014年10月18日～11月24日
- ・五城目町教育委員会・弘前大学人文学部合同研究発表会・特別展示「中山遺跡と八郎潟の亀ヶ岡文化」五城目町町民センター、2014年9月23日

○思想文化講座

李 梁

- (1)現在の研究テーマ
- ・漢訳西学書の研究、近世東アジアの新知識体系、イエズス会の教育思想
- (2)著書、論文、その他
- [論文]
- ・李梁「白鹿洞書院と詩跡」『人文社会論叢—人文科学篇』第32号、pp.1-15、単著、2014年8月
- ・李梁「新井白石の知識世界序説」『人文社会論叢—人文科学篇』第33号、pp.23-35、単著、2015年2月
- (3)研究発表、講演
- [研究発表]
- ・李梁「日文研共同研究班「心身/身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統概念の再検討とその普遍化の試み—」、「新

井白石の漢学と西学—朱子学的「合理主義」と真理概念の普遍性において— 国際日本文化研究センター、2014年5月10～11日

・李梁「マカオと海上のシルクロード」国際学術研討会および澳門歴史文化研究会第13回学術年会参加「イエズス会と東アジア—新知識体系をめぐって—」、マカオ理工学、2014年9月21～24日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

・マカオ・香港・広州出張、学会参加、研究文献調査および海外の関係研究者（香港城市大学費楽仁（Prof.Lauren F・Pfister）教授および広州中山大学梅謙立（Prof.Thierry Meynard）教授）との研究交流、2014年9月20日～同10月1日

(6)科学研究費補助金

・基盤研究（C）「近世東アジアにおける新知識体系とその構築に関する思想文化史的研究」（研究代表者）平成23～26年度

(7)共同研究

・国際日本文化研究センター共同研究班「心身/身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統概念の再検討とその普遍化の試み—（共同研究員）平成23～26年度

・人間文化研究機構 国文学資料館「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」（研究分担者）平成26～30年度

今井正浩

(1)現在の研究テーマ

・西洋古典学、ヨーロッパ古典文化論、西洋古典古代の医学と同時代の哲学との間の影響関係の解明

(2)著書、論文、その他

[論文]

・Masahiro IMAI: Erasistratus of Ceos and the Theoretical Sources for his Anatomical Physiology of a Human Being, *Historia Scientiarum: International Journal of the History of Science Society of Japan*, Vol.24, No.3, pp.103-125, March 2015

・今井正浩「展望 新時代の古代ギリシア・ローマ医学史研究」『科学史研究』第53巻（No.270）pp.133-138、2014年7月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

・今井正浩「「神経」の発見—人体の中樞器官をめぐるヘレニズム期からローマ期にかけての論争史—」日本科学史学会第61回年会・総会、酪農学園大学、2014年5月24日～25日

・Masahiro IMAI: Comments on the Paper given by Prof. Philip van der Eijk (Humboldt-Universität zu Berlin) on Galen and early Christians on the Role of the Divine in the Causation and Treatment of Health and Disease, ICU Tokyo, September 18, 2014

[講演]

・今井正浩「古代ギリシア・ローマの医学と同時代の哲学思想」日本科学史学会 科学史学校2014年度（第27期）日本大学理工学部、2014年8月23日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究（C）「人体の中樞器官をめぐる論争史をとおしてみた西洋古代の人間観の展開に関する実証研究」（研究代表者）平成25～27年度

木村純二

(1)現在の研究テーマ

・和辻哲郎の倫理思想、伊藤仁斎の倫理思想

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究（A）「東アジアにおける朝鮮儒教の位相に関する研究」研究分担者（研究代表者：井上厚史・島根県立大学）

泉 谷 安 規

山 口 徹

(1)現在の研究テーマ

- ・日本近現代文学、大正期ロマン主義文学についての修辞的研究、1910年代日欧文化情報伝達の調査研究

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・山口徹「作家太宰治の揺籃期－中学・高校時代のノートに見る映画との関わり」『日本近代文学館年誌』10号 pp.47-67、単著、2015年3月、公益財団法人日本近代文学館

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・山口徹「作家太宰治の揺籃期－中学・高校時代のノートから」、日本近代文学会東北支部夏季大会、弘前大学、2014年7月5日

[講演]

- ・山口徹「鷗外「椋鳥通信」－第一次世界大戦前夜の国際情報伝達の様相」Mitteilungen eines Landvogels (Mukudori tsûshin), Mori Ôgais transnationale Rundschau am Vorabend des Ersten Weltkrieges、2014年6月19日、ベルリン森鷗外記念館

(4)学外集中講義など

- ・特別講義「鷗外「椋鳥通信」に関する考察」Betrachtungen zu Mori Ôgais Mukudori tsûshin、2014年6月13日、ハイデルベルク大学
- ・「夏目漱石の見た夢」札幌新川高校、2014年11月5日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・ドイツ連邦共和国（フンボルト大学ベルリン、ベルリン州立図書館、ハイデルベルク大学、ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン）文献資料調査、講演、特別講義、研究交流 2014年6月11日～25日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「森鷗外の訳業を媒体とした1910年代日欧文化情報伝達の調査と分析」（研究代表者）、2013年～2015年度

横 地 徳 廣

土 井 雅 之

(1)現在の研究テーマ

- ・イギリス文学・文化、シェイクスピアとその時代

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・土井雅之「共和政ローマと軍人コリオレイナス」第53回シェイクスピア学会、単独、学習院大学、2014年10月11日
- ・土井雅之「プルタークの『英雄伝』とシェイクスピアのローマ史劇」日本英文学会東北支部第69回大会シンポジウム（第一部門）「オリジナルとアダプテーション」、単独、弘前大学、2014年11月30日
- ・土井雅之「エリザベス朝の古代ローマ人気とシェイクスピアの創作活動」第18回エリザベス朝研究会、単独、慶應義塾大学、2015年1月31日

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「三度はおいしいイギリス文学」八戸工業大学第二高等学校、2014年10月22日

○コミュニケーション講座

山本 秀樹

(1)現在の研究テーマ

- ・地理情報システム（GIS）による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・山本秀樹「地理及親縁関係視閥下の語序類型研究」『日語学習與研究』第174号、pp.7-12、単著、2014年10月25日

[その他、事典項目執筆]

- ・佐藤武義・前田富祺（編集代表）『日本語大事典（上・下巻）』（朝倉書店）2014年11月6日（主に言語類型論関連の諸項目執筆）

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「地理情報システムによる世界諸言語の格標示体系の言語類型地理論的研究」（研究代表者）、平成25～27年度

木村 宣美

(1)現在の研究テーマ

- ・英語学（統語論・意味論）

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・木村宣美「日本語の右枝節点線上げと削除分析」弘前大学人文学部『人文社会論叢－人文科学篇』第33号、pp.1-13、単著、平成27（2015）年2月
- ・木村宣美「右枝節点線上げと削除分析」深田智・西田光一・田村敏弘編『言語研究の視座（坪本篤朗教授退職記念論文集）』pp.206-219、単著、平成27（2015）年3月、開拓社

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「『英語の情報構造』入門 - どういう時に受動態が使われるのか - 」青森県立八戸西高等学校 平成26（2014）年10月1日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（C）「右方移動現象の分析に基づく併合と感覚運動体系における線形化のメカニズムの解明」（研究代表者）平成26～28年度

渡辺 麻里子

(1)現在の研究テーマ

- ・中世文学・説話文学・仏教文学、書誌学、天台談義書、大藏経（明版・鉄眼版）、天神信仰、津軽の宗教と文化

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・渡辺麻里子「談義書・論義書における文体と表記」、『日本文学』第63-7号、pp.58-68、単著、2014年7月、日本文学協会
- ・渡辺麻里子「法華経の講会・論義・談義書」、『法華経と日蓮』（シリーズ日蓮 第1巻）pp.329-344、単著、2014年5月、春秋社
- ・渡辺麻里子「学僧の教育—中世の天台宗における学問を中心に—」、『文学・語学』第209号、pp.14-27、単著、2014年4月、全国大学国語国文学会
- ・渡辺麻里子「古典文学教材の可能性—「検非違使忠明」（『宇治拾遺物語』第九十五話）を読む—」『古典教育研究会論集』、pp.77-94、単著、2015年3月、早稲田大学国語教育学会

[その他]

- ・渡辺麻里子「小町集」「定家百首」「金剛三昧院奉納和歌」「雑々集」「夫木和歌抄」「職方外紀」「煩砲用法」「近思録」「三国志」の項目、『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』（弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト）、2015年3月31日、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・渡辺麻里子「唱導と説法」、説話文学会、専修大学神田校舎、2014年9月27日
- ・渡辺麻里子「『宗要直兼集』について」、天台宗教学大会、叡山学院、2014年11月7日
- ・「東奥義塾高校図書館蔵日本古典文学関係資料について」、「東奥義塾高校所蔵旧弘前藩校「稽古館」資料調査報告会」、弘前大学人文学部多目的ホール、2015年2月23日

[講演]

- ・渡辺麻里子「了翁の事跡を追う」了翁禪師パネルディスカッション「湯沢が生んだ名僧 了翁さん今なぜ了翁禪師か」（第29回国民文化祭・あきた2014）、湯沢文化会館大ホール、2014年10月26日
- ・渡辺麻里子「津軽の仏教文化—弘前市立博物館展示『久祥院殿写経』（隣松寺蔵）をめぐる—」、弘前大学人文学部 国際公開講座2014「日本を知り、世界を知る」「アジアの文化・歴史《再発見》—津軽・日本そして中国—」、弘前大学50周年記念会館岩木ホール、2014年11月3日
- ・渡辺麻里子「高校における古典教育の意義」、平成二十六年度青森県高等学校教育研究会国語部会西地区研究大会、五所川原第一高等学校、2014年11月14日

(4)学外集中講義など

- ・平成26年度高等学校国語科教育講座「生徒の学習意欲を高める古典指導—仏教文学の魅力—」、青森県総合学校教育センター、2014年6月19日
- ・平成26年度弘前大学教員免許状更新講習「『竹取物語』の世界」「『平家物語』の世界」、弘前大学50周年記念会館岩木ホール、2014年8月11日
- ・ドリーム講座 大学模擬授業「浦島太郎からみた日本古典文学の魅力」、千葉県立匝瑳高等学校、2014年11月20日
- ・くずし字講座 弘前市立中央公民館事業 文京学区ふれあい講座・文京学区まなびいプレ講座「昔話と物語の世界」、文京小学校、2014年7月1日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（A）（一般）「宮内庁書陵部所蔵道蔵を中心とする明版道蔵の調査と研究」（研究分担者）平成26～30年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・弘前大学人文学部 国際公開講座2014「日本を知り、世界を知る」「アジアの文化・歴史《再発見》—津軽・日本そして中国—」、弘前大学50周年記念会館岩木ホール、2014年11月3日
- ・「東奥義塾高校所蔵旧弘前藩校「稽古館」資料調査報告会」、弘前大学人文学部多目的ホール、2015年2月23日

上 松 一

(1)現在の研究テーマ

- ・SLA、英語教育

(2)著書、論文、その他

[その他]

- ・Book review: Online Reading. Cambridge University Press (2014年5月8日)
- ・Book review: Robin Longshaw; Laurie Blass; Mari Vargo; Eunice Yeates. 21st Century Reading. 1st ed. Heinle, Cengage Learning (2014年12月5日)

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・'Implementation of Teaching English in English at Junior and Senior High School: How Successful, How Difficult'（「青森教育のつどい2014」五所川原 2014年11月2日）

(4)学外集中講義など

- ・平成26年度弘前大学教員免許状更新講習（2014年7月19日）「『英語は英語で』教える授業の実践と指導」

- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・ London、Research on English teaching and learning、3月15日～31日
- (7)共同研究、受託研究など
 - ・ 研究協力者:「外国語教育」(『青森教育のつどい2014』五所川原 2013年11月1日～2日)

奈 蔵 正 之

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ 現代フランスの社会と政治、第二次世界大戦とフランス文学、アルベール・カミュの作家としての自己形成
- (2)著書、論文、その他
 - [論文]
 - ・ 「カミュ『カルネ』第1分冊校訂の問題点」『人文社会論叢—人文科学篇』第33号、pp.15-41、単著、2015年2月

熊 野 真 規 子

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ 外国語教育(フランス語教育、複言語・複文化教育)
- (3)研究発表、講演
 - [研究発表]
 - ・ 「2014年度『弘前×フランス』プロジェクトを振り返る」、RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI 2015(第29回関西フランス語研究会)、単独、アンスティチュ・フランセ関西—大阪 2015年3月20日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・ フランス共和国、弘前大学グローバル人材育成事業学生海外PBLプログラム
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・ 科学研究費助成事業基盤研究(B)「異文化間能力養成のための教材と評価基準の開発およびその有効性の検証」(連携研究者、研究代表者:大木充〔京都大学名誉教授〕)、平成25～27年度

小 野 寺 進

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ British literature in oral culture and written culture、全知の語りに関する考察、英語教育に関する多読と音読
- (2)著書、論文、その他
 - [論文]
 - ・ 小野寺進「読みの表象としての『ピンチャー・マーティン』」『人文社会論叢—人文科学篇』第33号、pp.43-53、2015年2月
 - ・ 小野寺進「英語コミュニケーションのためのスキルアップ法」『21世紀教育フォーラム』第10号、pp.49-56、2015年3月
- (4)学外集中講義など
 - ・ 出前講義「英語習得」(午前・午後2回)、宮城県古川高校、2014年11月7日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・ フランス/ボルドー、出張/海外PBL活動、2015年2月9日～23日
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
 - [それ以外のもの]
 - ・ 日本英文学会東北支部第69回大会(弘前大学共催)、弘前大学、2014年11月29日～30日

堀 智 弘

- (1)現在の研究テーマ
 - ・ 十九世紀アメリカ文学、奴隷制文学
- (2)著書、論文、その他

[その他、翻訳]

・コーネル・ウェスト『哲学を回避するアメリカ知識人——プラグマティズムの系譜』共訳、2014年9月、未來社

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

・ワシントンD.C.とボルチモア、文献資料調査等、2015年2月11日～18日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究(C)「十九世紀米国社会の世俗化との関連からみる、奴隷物語の小説化過程の歴史的研究」(研究代表者) 平成26～28年度

・基盤研究(C)「アメリカ合衆国における貧乏白人の文学的表象の研究」(研究分担者、代表:成蹊大学・権田建二)

Janson Michel

楊 天 曦

川 瀬 卓

(1)現在の研究テーマ

・日本語史(語彙史・文法史)、副詞の歴史的研究、地方議会会議録の社会言語学的研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

・川瀬卓「近世における副詞「どうも」の展開」青木博史・小柳智一・高山善行編『日本語文法史研究2』pp.131-151、単著、2014年10月、ひつじ書房

[その他]

・川瀬卓「詞八衢」「小学読本」弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』pp.26-33、単著、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

・二階堂整、川瀬卓、高丸圭一、田附敏尚、松田謙次郎「地方議会会議録による方言研究の可能性」日本方言研究会第99回研究発表会、共同、北海道大学、2014年10月17日

・川瀬卓「東奥義塾高校図書館所蔵日本語学関係資料について」東奥義塾高校所蔵旧弘前藩藩校「稽古館」資料調査報告会、単独、弘前大学、2015年2月23日

[講演]

・川瀬卓「津軽の気づきにくい方言—ことばの受容と変容—」弘前大学人文学部国際公開講座2014「日本を知り、世界を知る」アジアの文化・歴史《再発見》—津軽・日本そして中国—、単独、弘前大学、2014年11月3日

(4)学外集中講義など

・弘前大学ドリーム講座「東北方言の助詞「さ」の謎—方言に見ることばの変化—」青森県立青森南高等学校、2014年11月14日

・地域未来創生塾「東北方言の助詞「さ」の謎—方言に見ることばの変化—」弘前市立中央公民館、2014年12月10日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究(C)一般「地方議会会議録の社会言語学的研究—バリエーション研究の事例として—」(研究分担者) 平成25～27年度

○国際社会講座

PHILIPS JOHN EDWARD

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・ PHILIPS JOHN EDWARD “Islamic Publications in Nigeria” in Annual Review of Islam in Africa Special Issue: Islam in Nigeria issue number 12/1 (2013-14), pp.92-101、単著

[その他]

- ・ PHILIPS JOHN EDWARD “Understanding Boko Haram” The Japan Times May 28, 2014、単著、 <http://www.japantimes.co.jp/opinion/2014/05/27/commentary/world-commentary/understanding-boko-haram/>
- ・ PHILIPS JOHN EDWARD “The Early Issues of the First Newspaper in Hausa Gaskiya ta fi Kwabo, 1939-1945” History in Africa (2014)、単著、<http://dx.doi.org/10.1017/hia.2014.12>

齋藤義彦

(1)現在の研究テーマ

- ・ 現代ドイツ、ヨーロッパ文化

(2)著書、論文、その他

[その他、翻訳]

- ・ 齋藤義彦「ドイツ連邦議会における連邦首相アンゲラ・メルケル博士の2015年度予算法説明演説（2014年9月10日ベルリン）」『人文社会論叢—社会科学篇』第33号、pp.105-118、単著、2015年2月

城本るみ

荷見守義

(1)現在の研究テーマ

- ・ 東アジア地域史、中国史（明代）、朝鮮王朝史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・ 荷見守義『明代遼東と朝鮮』単著、2014年5月、汲古書院

[論文]

- ・ 荷見守義「陳王庭と張銓 - 明代遼東監軍御史考 - 」『(中央大学人文科学研究所) 人文研紀要』第79号、pp.165-197、単著、2014年9月
- ・ 荷見守義「明朝档案を通じて見た明末中朝辺界」『燕行録の世界』景仁文化社（韓国）、pp.87-147、単著、2015年3月

[その他]

- ・ 荷見守義「大明律祥刑氷鑑指南旁訓」「明律卷十一国字解」「問刑條例 名例律国字解」「問刑條例 戸律国字解」解説『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』pp.37-46、単著、2015年3月31日

(3)研究発表、講演

[講演]

- ・ 荷見守義「雲南 - 中国南辺から見る世界 - 」弘前大学人文学部国際公開講座2014「日本を知り、世界を知る」アジアの文化・歴史《再発見》- 津軽・日本そして中国 - 、単独、弘前大学50周年記念会館岩木ホール、2014年11月3日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・ 中国、雲南辺疆調査、2014年8月18日～27日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・ 基盤研究 (C)「明代中国における審判・軍功評価事例の集積による辺疆統御様態の解明」(研究代表者) 2014～

2017年度

- ・基盤研究 (A) 「近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容」(研究分担者) 2014～2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・弘前大学人文学部国際公開講座2014「日本を知り、世界を知る」 アジアの文化・歴史《再発見》- 津軽・日本そして中国 - 、弘前大学、2014年11月3日

林 明

(1)現在の研究テーマ

- ・ガンディーの思想及び歴史的再評価、ガンディーと日本の関係、スリランカの民族問題

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・林明「紛争終了後のスリランカの現状」「グローバル化と暴力に関する政治学的研究(科学研究費補助金 研究課題番号: 23243019 基盤研究 (A) 代表者: 大串和雄(東京大学法学(政治学)研究科(研究院)教授))」研究会、単独、弘前国際ホテル、2014年7月12日

(4)学外集中講義など

- ・平成26年度夏季集中講義「国際環境システム論特別講義」、東北大学大学院、2014年8月4日～7日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・スリランカ、資料収集、2014年3月22日～4月6日
- ・インド、資料収集、2014年9月6日～21日

(7)共同研究、受託研究など

- ・「ガンディーと日本の関係」についてのThomas Weber氏(Honorary Associate, La Trobe University)との共同研究

澤 田 真 一

(1)現在の研究テーマ

- ・ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・澤田真一「ニュージーランド文学におけるポストコロニアル・アイデンティティの形成ーより高次の調和を求めてのIhimaeraによる脱植民地化の過程」『日本ニュージーランド学会誌』第21号、pp.3-13、単著、2014年6月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・澤田真一「Witi Ihimaera and the Literature of Mauri」New Zealand Studies Society-Japan International Symposium 2014、単独、Auckland Institutes St Helens、2014年8月30日

[講演]

- ・澤田真一「異文化理解ーマオリ族の文化について」弘前ローターアクトクラブ10月例会、単独、SKK情報ビジネス専門学校、2014年10月16日
- ・澤田真一「異文化理解から生まれるもの: 差異と共生について考える」弘前地区安全運転管理者協会・平成26年度事業主の集い、単独、フォルトーナ、2014年11月11日

(4)学外集中講義など

- ・平成26年度大学模擬講義「南半球から日本を眺めるー日本の常識は世界の非常識!？」秋田県立大館国際情報学院高等学校、2014年12月11日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・ニュージーランド/オークランド、国際シンポジウム参加、2014年8月27日～9月5日
- ・ニュージーランド/オークランド、資料収集及び研究、2015年3月2日～10日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究 (C) 「ニュージーランド文学における共生を鍵とした文化的対話の弁証法」(研究代表者) 平成26～

28年度

FUHRT VOLKER MICHAEL

(1)現在の研究テーマ

- ・ナショナリズムと歴史認識

中村 武司

(1)現在の研究テーマ

- ・西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・中村武司「ウェストミンスター選挙区における体制支持派の提督とイギリス海軍の「神話」、1780-1806年」『西洋史学』254号、pp.19-37、単著、2014年9月、日本西洋史学会

[その他]

- ・中村武司「『近世』の世界システムをどう考えるのか」『全歴研研究紀要』50巻、全国歴史教育研究協議会、pp.116-119、単著、2014年7月
- ・中村武司「フランス革命・ナポレオン戦争」、イギリス文化事典編集委員会（編）『イギリス文化事典』丸善出版、pp.512-513、単著、2014年11月
- ・中村武司「イギリス帝国の形成」、イギリス文化事典編集委員会（編）『イギリス文化事典』丸善出版、pp.518-519、単著、2014年11月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・中村武司（向正樹・後藤敦史・中村翼との共同報告）「歴史学界の「マルサスの罠」からの脱出をめざして：大阪大学歴史教育研究会の活動と若手研究者のネットワーク」史学会125周年事業・リレーシンポジウム2014「高大連携による大学歴史系専門教育・教員養成教育の刷新」、共同、大阪大学中之島センター、2014年9月14日

(4)学外集中講義など

- ・出張講義「ヨーロッパとは何か」秋田県立秋田北鷹高等学校、2014年6月11日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・イギリス（ロンドン）、資料調査、2014年8月9日～8月28日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「19世紀イギリスの改革運動に関する政治文化史研究：大西洋革命との関連から」（研究代表者）平成26～28年度

武井 紀子

(1)現在の研究テーマ

- ・古代日本地方制度研究、出土文字資料研究、日唐律令制比較研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・武井紀子「律令財政と貢納制」岩波講座『日本歴史』第3巻古代3、pp.110-140、共著、2014年9月、岩波書店

[論文]

- ・武井紀子「古代における倉庫出納業務の実態」『国立歴史民俗博物館研究報告』194、pp.101-126、単著、2015年3月
- ・武井紀子「日本倉庫令復原研究の現在」『弘前大学国史研究』138、pp.1-24、単著、2015年3月

[その他・資料調査報告]

- ・武井紀子「慶州・雁鴨池出土銘文土器の調査報告」『国立歴史民俗博物館研究報告』194、pp.343-351、単著、2015年3月
- ・平川南・武井紀子「秋田城跡 第五四次・七二次・七三次調査出土漆紙文書について一積文の補定と追加」秋田

市教育委員会秋田城跡調査事務所編『秋田城跡調査事務所年報2014』、pp.113-124、共著、2015年3月

[その他・書評]

・武井紀子「十川陽一『日本古代の国家と造営事業』」『法制史研究』64、pp.263-267、単著、2015年3月

[その他・図録解説等]

・武井紀子ほか 国立歴史民俗博物館国際企画展示図録「文字がつなぐ—古代の日本列島と朝鮮半島—」展示解説、pp.64-66、76-79、154、共著、2014年10月

・武井紀子ほか 弘前大学人文学部・弘前大学地域未来創生センター・弘前藩藩校史料調査プロジェクトチーム編『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』、pp.12-25、共著、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

・武井紀子「日本古代租税制度と律令法」第59回国際東方学会会議（東方学会）シンポジウム「律令制の人民支配の比較研究」、単独、日本教育会館、2014年5月24日

・武井紀子「東奥義塾高校図書館所蔵日本古代史関係資料について」東奥義塾高校所蔵旧弘前藩藩校「稽古館」資料調査報告会（弘前大学人文学部・弘前大学地域未来創生センター）、単独、弘前大学人文学部、2015年2月23日

[講演]

・武井紀子「居村木簡をよむ」茅ヶ崎市シンポジウム「居村木簡が語る古代の茅ヶ崎」（茅ヶ崎市）、単独、茅ヶ崎市役所、2014年7月5日～6日

・武井紀子「律令制下の倉庫管理—監臨官の不正と官物補填」平成26年度東方学会秋季学術大会（東方学会）、単独、奈良女子大学、2014年11月8日

・武井紀子「日本倉庫令研究の現在」平成26年度弘前大学国史研究会大会公開講演（弘前大学国史研究会）、単独、弘前大学附属図書館ラーニングスペーススクエア、2014年10月4日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

・中国山西省、資料史跡調査、2014年8月22日～28日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究（B）「律令制の人民支配の総合的研究—一日唐宋令の比較を中心に—」（連携研究者、研究代表者：大津透）平成25～28年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

・「東奥義塾高校所蔵旧弘前藩藩校「稽古館」資料調査報告会」弘前大学人文学部・弘前大学地域未来創生センター、2015年2月23日

[それ以外のもの]

・「平成26年度弘前大学国史研究会大会」弘前大学国史研究会、2014年10月4日

○情報行動講座

奥野 浩子

(1)現在の研究テーマ

・英語の動詞の意味構造と構文、国語学習と英語学習を結ぶ韓国語教材の開発

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

・韓国、共同研究の打ち合わせ・資料収集、2014年9月24日～28日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

・日本英文学会東北支部第69回大会、弘前大学（弘前大学共催）、2014年11月29日～30日

佐藤 和之

(1)現在の研究テーマ

・方言主流社会の言語変容と言語意識の相関研究、外国人への災害情報伝達研究：被災外国人に「やさしい日本語」

で情報を伝える、自閉症スペクトラム障害を持つ人たちのコミュニケーション能力についての研究、グローバル社会におけるソフトパワーとしての日本語の役割研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・松本敏治・佐藤和之ほか「自閉症スペクトラム障害児・者に見られる方言不使用について～その普遍性と理論的検討」第16回『認知神経心理学研究会予稿集』pp. 7-8、2014年、認知神経心理学研究会
- ・佐藤和之「社会言語学がwelfare linguisticsであること理由～鶴岡調査の根拠と貢献」『社会言語科学会論文集・社会言語学の源流を追って』pp.239-240、2014年、社会言語科学会
- ・松本敏治・佐藤和之ほか「自閉症は方言を話さない」は普遍的現象か」『特殊教育研究』52巻4号, pp.263-274、2014年、日本特殊教育学会
- ・佐藤和之「『やさしい日本語』の活用理由を再考する」『国際文化研修』Vol.85、pp.12-17、2015年、全国市町村国際文化研修所

作 道 信 介

曾 我 亨

(1)現在の研究テーマ

- ・東アフリカ牧畜社会における気候変動と紛争、東アフリカにおける難民の生存を可能にした新たな経済活動、人類の進化史的基盤に関する研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・日比野愛子・曾我亨「地域に埋め込まれた／地域を創りだすローカル・イノベーション」『人文社会論叢—社会科学篇』第33号、pp.1-16、2015年
- ・曾我亨「生業」松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』pp.56-69、2014年、世界思想社

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・曾我亨「人類学的視点から考える新たな他者像」第68回日本人類学会大会進化人類学分科会、アクトシティ浜松コンgresセンター、2014年11月3日
- ・曾我亨「三項関係のなかで生まれる他者」第12回人類社会の進化史的基盤研究研究会、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2014年10月11日
- ・曾我亨「生態人類学の観点から」第2会公開シンポジウム『制度—人類社会の進化』（河合香史編 京都大学学術出版会、2013）をめぐって、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、2014年12月6日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・エチオピア民主連邦共和国、現地調査、2014年8月18日～9月18日
- ・アメリカ合衆国（ジェームズ・マディソン大学）、2015年3月26日～3月31日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・基盤研究（A）「アフリカ在来知の生成と共有の場における実践的地域研究」（代表：重田真義、京都大学）研究分担者
- ・基盤研究（C）「難民の生存を支える新たな経済活動に関する人類学的研究」（研究代表者）
- ・基盤研究（B）「援助と投資の経済人類学：エチオピアの食料資源の市場化／脱市場化に関する実証分析」（代表：松村圭一郎、立教大学）研究分担者

内 海 淳

大 橋 忠 宏

(1)現在の研究テーマ

- ・空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討、弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計
- (2)著書、論文、その他
 - [論文]
 - ・大橋忠宏、工藤亮磨「弘前市の都市内公共交通サービスの現状とバスサービスの改善案：弘前市城東環状100円バスの場合」、『日本都市学会年報』、Vol.47、pp.25-34、2014年5月
 - ・大橋忠宏「ICAOデータを利用した国際航空旅客市場特性の検討」、『人文社会論叢—社会科学編』、第32号、pp.67-79、2014年8月
- (3)研究発表、講演
 - [研究発表]
 - ・大橋忠宏「ICAOデータを利用した国際航空旅客市場特性の検討と課題」、2014年度公益事業学会北海道・東北部会、北海道電力本店、北海道、2014年9月6日
 - ・大橋忠宏「日本発着データを利用した国際航空旅客市場特性の検討と課題」、2014年度応用地域学会那覇大会、沖縄産業支援センター、沖縄県、2014年11月29-30日
- (4)学外集中講義など
 - ・弘前大学ドリーム講座「青森市内のバスや鉄道利便性の経済評価」青森北高校、9月2日
 - ・平成26年度後期講義「地域と情報ネットワーク」青森公立大学、2014年9月～12月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・基盤研究(C)「空港・路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場の政策評価に関する実証研究」平成24～27年度

羽 淵 一 代

- (1)現在の研究テーマ
 - ・若者の親密性と性、新しいメディア利用が社会に及ぼす影響
- (2)著書、論文、その他
 - [論文]
 - ・羽淵一代「メディア利用にみる恋愛・ネットワーク・家族形成」『ケータイの2000年代—成熟するモバイル社会』pp.149-169、2014年、東京大学出版会
 - ・Ichiyo HABUCHI, 2014, Mobile Phone Usage in Turkana, Kenya, Gerard Goggin and Larissa Hjorth (eds.), The Routledge Companion to Mobile Media pp.475-487, Routledge.
- (3)研究発表、講演
 - [研究発表]
 - ・Ichiyo HABUCHI, 2014, Romantic Love and Media Usage Among Japanese Youth, XVIII ISA World Congress of Sociology, Yokohama, Japan.
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
 - ・ロンドン（英国）調査（科研費）
 - ・トゥルカナ（ケニア）調査（科研費）
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
 - ・挑戦的萌芽研究「周縁地域における携帯電話を利用したリテラシー獲得支援」（研究代表者）2014～2017年度

増 山 篤

- (1)現在の研究テーマ
 - ・地理的アクセシビリティに関する理論的研究、各種地理的アクセシビリティ指標を用いた実際の都市・地域空間の評価・分析
- (2)著書、論文、その他
 - [論文]
 - ・Atsushi Masuyama (2014) Total locational surplus for facility users distributed continuously along a network, International Journal of Geographical Information Science, 28(7), 1502-1522

- ・増山篤「青森県における自家用車による買い物行動のモデル化と商業活動の最適な空間的配分」『都市計画論文集』49(2)、pp.176-185、2014年

日比野 愛子

(1)現在の研究テーマ

- ・科学知・テクノロジーのグループ・ダイナミックス

(2)著書・論文、その他

[著書]

- ・日比野愛子、渡部幹、石井敬子『つながれない社会－グループ・ダイナミックスの3つの眼』、共著、2014年4月、ナカニシヤ出版

[論文]

- ・Aiko Hibino, Toshio Kobori & Takeyasu Kunio「A Short Story of AFM in biology」Takeyasu(eds.)『Atomic Force Microscopy』、pp.1-11、共著、2014年4月、Pan Stanford Publishing
- ・日比野愛子、江間有沙、上田昌文、菱山玲子「生活習慣病対策ゲームの開発実践－知の生成をうながすゲーミング・インタラクションに注目して」『日本経営工学会論文誌』Vol.65, No.3, pp.212-218、共著、2014年11月
- ・日比野愛子、曾我亨「地域に埋め込まれた／地域を創りだすローカル・イノベーション」『人文社会論叢－社会科学篇』第33号、pp.1-16、共著、2015年2月

[短報・記事]

- ・日比野愛子「ゲームで浮かび上がる地域の健康課題：ネゴバト津軽版（東目屋版）の実践報告」『市民研通信』第29号通巻175号、単著、2015年3月

(3)研究発表・講演

[研究発表]

- ・日比野愛子、永田素彦「提示法による人工細胞イメージの変化」日本社会心理学会第55回大会、共同、北海道大学、2014年7月27日
- ・日比野愛子、曾我亨「生産変動にゆれる人-機械ダイナミックス：青森地域の工場を事例として」日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会、共同、東洋大学、2014年9月6日

[招待講演]

- ・日比野愛子「生物学的想像力の共通性と多様性」、細胞を創る研究会6.0、単独、東京大学、2014年11月14日

[ワークショップ企画]

- ・日比野愛子「ネゴシエート・バトル（生活習慣病対策ゲーム）の開発実践」日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会、単独、東洋大学、2014年9月7日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動

- ・ジェームズマディソン大学（アメリカ、ワシントン）、2015年3月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「生命観を彫刻する細胞デザインに関する研究」（研究代表者）平成25～26年度
- ・基盤研究（A）「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究－社会・経済・法的アプローチ」（研究分担者）平成24～26年度
- ・経営アカデミー生産性研究助成「ローカル機械がもたらす農業イノベーション：農機具共同体の事例分析」（研究代表者）平成26～27年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・弘前大学と弘前市との連携調査研究委託モデル事業「土産物の選択における価値と観光客の購買行動に関する研究」平成26年度（研究代表者）
- ・弘前市公民館、弘前大学との地域づくり連携事業「生活習慣病対策ゲームの実践」平成26年度

栗原 由紀子

(1)現在の研究テーマ

- ・統計的マッチングに関する研究、政府統計マイクロデータ分析と推定精度に関する研究

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・栗原由紀子「統計的マッチングにおける推定精度とキー変数選択の効果－法人企業統計調査マイクロデータを対象として－」『統計学』第108号、pp.1-15、単著、2015年3月

[その他、報告書]

- ・栗原由紀子「参加者アンケートの集計結果」平成26年度『地域未来創生センタージャーナル』、2015年2月
- ・栗原由紀子「平成26年度 第7回学生生活実態調査報告書」、第7章担当、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・栗原由紀子「企業データを用いた統計的マッチングにおける共通変数選択について」、経済統計学会関東支部月例研究会、単独、立教大学、2014年6月7日
- ・Yukiko Kurihara " Selection Effects of Common Variables on Statistical Matching", The R User Conference, Single author, UCLA, July 2nd 2014
- ・栗原由紀子「企業予想の異質性に関する検証－法人企業景気予測調査マイクロデータを用いて－」、第58回経済統計学会全国研究大会、単独、京都大学、2014年9月12日
- ・栗原由紀子「景況パネルによる企業の予想形成の分析」、第39回弘前大学経済学会大会、単独、弘前大学、2014年10月24日
- ・坂田幸繁・栗原由紀子「景気予測調査マイクロデータの数量特性とその利用可能性」、一橋大学共同利用共同研究プロジェクト第2回研究報告会、共同、新潟市役所、2015年3月3日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- ・一橋大学経済研究所共同利用共同研究拠点事業プロジェクト研究「立地要因を考慮した企業・事業所活動の経時的特性に関する研究」(研究代表者:法政大学・森博美)平成26年度、共同研究者

〇ビジネスマネジメント講座

保田宗良

(1)現在の研究テーマ

- ・医療サービスと医療マーケティングの関連性、健康マーケティングシステム研究の方法論

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・保田宗良「ヘルスケアサービスと医薬品流通業」『人文社会論叢－社会科学篇』第32号、pp.17-26、単著、2014年8月
- ・保田宗良「医療サービスの質的向上と医薬品流通体制」『消費経済研究』第3号、pp.71-81、単著、2014年9月

[その他]

- ・保田宗良「ヘルスケアサービスと医薬品流通業に関する小論」『融合』No.26、pp.12-14、単著、2015年2月
- ・保田宗良「解題－顧客満足とまちづくり－」『2014年度弘前大学人文学部戦略的経費（地域貢献社会連携）報告書 公共交通を活用した中弘南黒地域活性化の研究』pp.1-9、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・保田宗良「健康サービスの質的向上と医薬品流通」日本消費経済学会東日本大会、単独、北星学園大学、6月21日
- ・保田宗良「健康サービスの質的向上と医薬品流通の総合的考察」日本消費経済学会全国大会、単独、長崎県立大学、9月28日
- ・保田宗良「地域医療の質的向上と医療マーケティングの考察」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、単独、北星学園大学、3月14日

[講演]

- ・「青森県の消費者問題の多角的考察」青森県消費者問題研究会、単独、県民福祉プラザ、2014年12月27日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- ・基盤研究(C)「医療サービスの質的向上を意図した健康マーケティングシステムの構築」(研究代表者)平成

26~28年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・シンポジウム「公共交通を活用した中弘南黒地域の活性化」弘前商工会議所会館、2月14日
- ・フォーラム「消費者教育フォーラム」八戸グランドホテル、2月28日
- ・フォーラム「消費者教育フォーラム」弘前大学、3月29日

森 樹 男

(1)現在の研究テーマ

- ・日系多国籍企業の地域統括本社制、北欧の地域活性化モデルと青森県、同人マンガの電子書籍化と海外展開

(2)著書、論文、その他

[研究ノート]

- ・森樹男「日系多国籍企業の欧州統括本社の現状」『弘前大学経済研究』第37号、pp.54-63、単著、2014年12月

[その他]

- ・森樹男「新入文学部の強みを加速する地域志向教育プログラムの開発」『地域未来創生センタージャーナル』pp.23-27、単著、2015年2月
- ・森樹男編『若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築事業 平成26年度 実施報告書』弘前大学人文学部・教育学部、共著、2015年2月
- ・森樹男編『課題解決型学習と学生の主体的な学び－大学生のチャレンジ2014－報告書』弘前大学人文学部・農学生命科学部、共著、2015年2月
- ・森樹男編『地域企業と実践する課題解決型学習による主体的な学びプログラムの構築 平成26年度事業実施報告書』弘前大学、共著、2015年3月
- ・森樹男編『弘前大学人文学部 教育改善・教育プログラム開発プロジェクト中間報告書』弘前大学人文学部、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・森樹男「地域統括本社の存続・撤退要因の研究～欧州地域統括本社に対するアンケート調査とコマツと豊田自動車織機の事例を通して～」多国籍企業学会西部部会、単独、大阪商業大学、2014年12月19日

(4)学外集中講義など

- ・青森高校スーパーグローバルハイスクール「グローバル時代の企業経営」青森高校、2014年10月22日
- ・大学出前講座「ヒット商品の裏側を探る～成功企業のビジネスモデルとは～」能代高校、2014年11月12日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・スウェーデン、European International Business Academy参加のため、2014年12月10日～15日
- ・タイ、日系企業の地域統括本社に関する調査のため、2015年3月4日～7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・文部科学省GP「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」（事業実施代表者）、2012～2014年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・青森県産業技術センター弘前地域研究所「若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築事業（平成26年度）」2014年10月～2015年2月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・人文学部FD講演会（共催 人文学部学務委員会）、弘前大学、2015年1月21日

[それ以外のもの]

- ・弘前大学フォーラム「課題解決型学習と学生の主体的な学びⅢ」、ホテルナクアシティ弘前、2014年12月19日
- ・弘前大学講演会「茨城大学根力育成プログラムについて」、弘前大学、2015年2月17日

加藤 恵吉

(1)現在の研究テーマ

- ・国際税務、実証会計、租税制度

(2)著書・論文、その他

[著書]

- ・中島茂幸、櫻田譲[編著]『[改訂版]ベーシック税務会計〈企業課税編〉』第1章・第3章・第8章の各担当節、創成社、2014年9月
- ・中島茂幸、櫻田譲[編著]『[改訂版]ベーシック税務会計〈個人課税編〉』第7-9章、53-68頁、創成社、2014年10月
- ・加藤恵吉、許霽他『基礎簿記会計(三訂版)』第4章37-44頁、第12章117-128頁、五紘舎、2015年3月

[論文]

- ・Hiroshi Ohnuma and Keikichi Kato“Empirical Examination of Market Reaction to Transfer Pricing Taxation Announcement in Press : A Japanese Perspective” *Journal of Modern Accounting and Auditing*, vol.11 , No.1, pp.10-26, David Publishing, New York, January 2015
- ・加藤恵吉、大沼宏、櫻田譲「移転価格税制の適用と資本市場の評価に関する実証研究」『研究年報 経済学』第75巻第1・2号、33-49頁、東北大学経済学会、2015年3月

[その他(書評)]

- ・(書評) 平井七奈著「中小企業における研究開発税制の適用とその有効性」『中小企業季報』中小企業経営研究所 2014年第1号、33-34頁、2014年4月

(3)研究発表・講演

[研究発表]

- ・Hiroshi Ohnuma and Keikichi Kato“Empirical Examination of Market Reaction to Transfer Pricing Taxation Announcement in Press : A Japanese Perspective” 37th European Accounting Association Annual Congress, Estonian Business School, Tallinn, Estonia, May 2014

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「税務と会計」青森県立三沢高等学校、2014年7月
- ・出張講義「くらしの中の会計学について」秋田県立湯沢翔北高等学校、2014年9月

高島 克史

(1)現在の研究テーマ

- ・起業家論、競争戦略論、実践としての経営戦略

(2)著書・論文、その他

[論文]

- ・高島克史「戦略の形成」『弘前大学経済研究』第37号、pp.39-53、単著、2014年12月

(4)学外集中講義など

- ・弘前高校出前講義「経営戦略を学べば常識がわかる」弘前高校、2014年9月19日
- ・青森高校ドリーム講座「経営戦略の世界」青森高校、2014年11月6日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究 (B)「起業家の認識・解釈プロセスをふまえたベンチャー企業事業化プロセスの体系的研究」(研究代表者) 2013～2015年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・弘前大学における課題解決型学習の取組と今後の展望～GPからCOCへ～「GPによる大学改革の成果とCOC」弘前大学、2015年2月17日

[それ以外のもの]

- ・青森高校スーパーグローバルハイスクール講演会「ビジネスマネジメント」青森大学、2014年10月29日

内藤 周子

(1)現在の研究テーマ

・会計学、財務会計、IFRS、公会計、六次産業化

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・内藤周子、第2章I「食料産業クラスターの事業展開」二神 恭一、高山 貢、高橋 賢 編著『地域再生のための経営と会計～産業クラスターの可能性～』 pp. 54-64、単著、2014年4月
- ・内藤周子、第2章V「食料産業クラスターの事業化の意義と課題」二神 恭一、高山 貢、高橋 賢 編著『地域再生のための経営と会計～産業クラスターの可能性～』 pp. 104-110、単著、2014年4月
- ・内藤周子、第3章VII「青森県におけるクラスター形成の意義と課題」二神 恭一、高山 貢、高橋 賢 編著『地域再生のための経営と会計～産業クラスターの可能性～』 pp.175-182、単著、2014年4月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・内藤周子「六次産業化の取組みにおける会計情報の活用」日本会計研究学会第86回東北部会、単独、八戸ポータルミュージアム、2014年7月12日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・挑戦的萌芽研究「六次産業化における事業の評価指標の開発とその応用可能性」(研究代表者)

大 倉 邦 夫

(1)現在の研究テーマ

- ・企業の社会的責任、ソーシャル・ビジネス、戦略的提携、社会的協働

(2)著書、論文、その他

[その他]

- ・森樹男編『若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築 平成26年度事業実施報告書』弘前大学人文学部・教育学部、共著、2015年3月

(7)共同研究、受託研究など

- ・青森県産業技術センター弘前地域研究所「若者の感性を活かした産学官連携ビジネスモデルの構築事業（平成26年度）」2014年10月～2015年2月

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- ・弘前大学における課題解決型学習の取組と今後の展望～GPからCOCへ～「GPによる大学改革の成果とCOC」弘前大学、2015年2月17日

恩 田 睦

(1)現在の研究テーマ

- ・経営史、日本経済史、鉄道史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・恩田睦「弘南鉄道の経営と電化・延伸：終戦直後の地方私鉄」鉄道史学会編『鉄道史学』第32号、3-16頁、単著

[その他：資料]

- ・恩田睦・小谷田文彦「沿線住民による地方鉄道の存続・利用促進運動：和田高枝氏ヒアリングによるえちぜん鉄道の活性化」研究推進・評価委員会編『人文社会論叢—社会科学編』第32号、125-137頁、2014年

[その他：調査報告]

- ・恩田睦「現地調査からみえた地方鉄道の活性化と大学の役割：教員チームの報告要旨」『弘前大学人文学部戦略的経費（地域貢献社会連携）報告書』59-61頁、2015年
- ・恩田睦・小谷田文彦「地方鉄道の活性化と地域社会の役割」『弘前大学人文学部戦略的経費（地域貢献社会連携）報告書』63-76頁、2015年

[その他]

- ・恩田睦「資料解説」(名古屋大学・法情報研究センター、木内信胤関係文書Web目録)

<http://jalii.law.nagoya-u.ac.jp/project/jakiuchi>

(3)研究発表、講演

[研究発表]

・恩田睦「弘南鉄道の電化・延伸：戦時・終戦直後の砂利需要」戦後鉄道史研究会、立教大学、2014年6月14日

[講演]

・恩田睦・小谷田文彦・Carpenter, Victor Lee「教員チームの話題提供：国内の事例紹介」シンポジウム・「公共交通を活用した中弘南黒地域の活性化」弘前商工会議所会館、2015年2月14日

・恩田睦・小谷田文彦・Carpenter, Victor Lee「九州の地方鉄道の調査報告：住民の「応援」による“おもてなし”」弘前市役所、2015年3月30日

(4)学外集中講義など

・弘前大学ドリーム講座「経営史ってどんな学問？」三本木高等学校、2014年10月8日

○経済システム講座

鈴木和雄

(1)現在の研究テーマ

・接客サービスの労働過程、大量生産体制下の労働形態と生活形態の変容

(2)著書、論文、その他

[論文]

・鈴木和雄「接客サービス労働過程分析の理論的視座」『日本労働社会学会年報』第25号、pp.66-95、単著、2014年12月25日、日本労働社会学会

[その他]

・鈴木和雄「鈴木和雄著『接客サービスの労働過程論（御茶の水書房、2012年）』に対する書評へのリプライ」『季刊・経済理論』第51巻第1号、pp.83-85、単著、2014年4月20日、経済理論学会

・鈴木和雄「経済理論学会第61回大会（専修大学、2014年10月5日／6日）・第4分科会「労働価値説とサービス論」報告」『季刊・経済理論』第51巻第1号、p.103、単著、2014年4月20日、経済理論学会

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

・弘前大学経済学会第39回大会、2014年10月24日、弘前大学

北島誓子

池田憲隆

(1)現在の研究テーマ

・1880年代の外国人経営造船企業と海軍との関係

(2)著書、論文、その他

[その他、研究ノート]

・池田憲隆「軍艦大和に関するノート」『人文社会論叢—社会科学篇』第32号、pp.111-124、単著、2014年8月

(4)学外集中講義など

[講演]

・弘前大学ドリーム講座「不思議なおかね」弘前中央高校、2014年8月21日

[TVインタビュー]

・中国中央テレビ局（CCTV）特別番組取材「日清戦争120周年」、2014年8月14日

細 矢 浩 志

(1)現在の研究テーマ

- ・ EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・ 細矢浩志「EU東方拡大とスペイン自動車産業の構造再編」、『人文社会論叢—社会科学編』第32号、pp.27-44、2014年8月
- ・ 細矢浩志「欧州自動車産業の生産ネットワークの進化とグローバル競争力の構築」池本修一・田中宏編『欧州新興市場国への日系企業の進出：中欧・ロシアの現場から』文真堂、pp.75-96、2014年11月

[講演]

- ・ 三沢市講演会「世界をちょこつとのぞいてみよう」、細矢浩志「EU=未確認政治物体の衝撃～私たちはEUから何を学ぶのか?～」、三沢市総合社会福祉センター、2014年10月10日

(4)学外集中講義など

- ・ 2014年度前期集中講義「経済政策論(前期)」、山形大学、2014年9月
- ・ 2014年度後期集中講義「経済政策論(後期)」、山形大学、2015年1月
- ・ 2014年度前期講義「生活と経済」、弘前医療福祉大学、2014年4月～9月
- ・ 2014年度後期講義「社会経済論」、弘前医療福祉大学、2014年10月～12月

黄 孝 春

(1)現在の研究テーマ

- ・ りんご産業の活性化、農産物の輸出、中国産業の高度化

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・ 黄孝春・田中彰・康上賢淑「資源確保と技術協力の間——日中レアアース交流会議の開催をめぐる」『人文社会論叢—社会科学編』第32号、pp.45-65、2014年8月

[その他]

- ・ 書評、黄孝春「増田四郎『大学でいかに学ぶか』」弘前大学21世紀教育センター『21世紀教育フォーラム』第10号、pp.77-78、2015年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- ・ 園芸学会東北部会公開シンポジウム「東北地方の農産物の販売・生産拡大戦略」黄孝春「りんごの輸出・販売戦略について」弘前市教育センター、2014年8月27日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ・ バンコク、青森県農産物輸出促進協議会海外視察、2015年1月6～10日
- ・ 上海、グローバル人材育成事業、2015年2月10日～16日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・ 基盤研究(C)「資源争奪戦時代におけるトランスナショナル企業の比較経営史研究：鉄鉱石の事例」(研究分担者)平成25～27(2013～15)年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・ 公益財団法人トラスト未来フォーラム「アジアにおける鉄鉱石貿易の金融化に関する調査研究」(研究代表者)平成26～27年度

李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- ・ 地域に根ざした新たな生き方モデル「あおもりモデル」の提唱、地域住民のQOLを重視した復興政策研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・李永俊・渥美公秀・永田素彦・河村信治『東日本大震災からの復興(2)がんばる のだー岩手県九戸郡野田村の地域力ー』、共著、2015年3月、弘前大学出版会

[論文]

- ・Young-Jun LEE and Sugiura Hiroaki, Impact of the Great East Japan Earthquake on Intentions to Relocate, Journal of Integrated Disaster Risk Management Vol 4, No 2, pp 64-73, 共著, 2014年
- ・李永俊・永田素彦・渥美公秀、「生活復興感の決定要因についてー東日本大震災の被災地住民アンケート調査からー」、日本災害復興学会論文集、No.6、pp.1-8、共著、2014年

[その他]

- ・東奥日報、「あおり経済未知るべ」連載

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・山口恵子・李永俊「無縁からの支援・縁からの支援ー岩手県九戸郡野田村を事例に一」、日本グループ・ダイナミックス学会第61回大会、共同、東洋大学、2014年9月7日
- ・Young-Jun LEE, The Determinants of Volunteer Work at the Disaster, IDRiM (Integrated Disaster Risk management), 共同、London, Ontario, Canada、2014年10月
- ・Young-Jun LEE, Who are Volunteers in Japan's Disaster Zone, Society for Applied Anthropology, 75th Annual Meeting, 共同、Pittsburgh, USA, 2015.3

[講演]

- ・弘前市防災マイスター育成講座「災害ボランティアと・被災地支援」2014年9月20日、弘前市消防本部大会議室
- ・三沢市立第二中学校ボランティア活動講演会「災害とボランティア活動」2014年9月30日、弘前大学
- ・第10回野田村社会福祉大会「野田村のこれまでとこれからー我々が見た野田村ー」2014年11月22日、岩手県野田村総合センター

飯島裕胤

(1)現在の研究テーマ

- ・企業金融論、企業買収の経済分析

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・飯島裕胤、「企業買収価格構造の幾何的理解とその利用」、『人文社会論叢—社会科学篇』第33号、pp.31-46、2015年2月

[その他・報告書]

- ・飯島裕胤、「空き家政策の可能性と課題」、飯島裕胤・曾我亨編『弘前大学 青森県西北地域県民局委託研究、住民参加型空き家可視化方法の検討及び事例調査 成果報告書』、pp.87-106、2015年3月

(7)共同研究、受託研究など

- ・青森県西北地域県民局委託研究、「住民参加型空き家可視化方法の検討及び事例調査」、2014年8月～2015年3月（研究代表者）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

(センター、学部共催)

- ・飯島裕胤「住民参加による空き家利活用の可能性について」、弘前市ヒロロ4階ホール、2015年2月28日

[それ以外のもの]

- ・飯島裕胤「空き家政策の可能性と課題」、青森県西北地域県民局、西北地域空き家予防・利活用連絡会議、五所川原市合同庁舎会議室、2015年3月17日

福田進治

(1)現在の研究テーマ

- ・リカードの経済理論、青森県の経済問題

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・ Hiroyuki Shimodaira & Shinji Fukuda 「Popularization of Classical Economics: A Text-mining Analysis on David Ricardo, James Mill, and Harriet Martineau」『Research Group of Economics and Management』(Yamagata University) No.2014-E01、pp.1-20、共著、2014年12月

[研究ノート]

- ・ 福田進治「羽鳥卓也のリカード研究」『人文社会論叢-社会科学篇』第33号、pp.167-178、単著、2015年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・ 福田進治「リカード～マーティノウ関連の成果に関して」(科研費「経済思想の受容・浸透過程に関する実証研究：人々は経済学をどのように受け入れたのか」の最終報告書に関する議論)第48回経済思想研究会、単独、東北大学、2014年8月3日
- ・ 福田進治「羽鳥卓也のリカード研究」第50回経済思想研究会、単独、東北大学、2015年2月7日

[講演]

- ・ 福田進治「近年の消費者政策の展開」消費者教育フォーラム(弘前大学地域未来創生センター・青森県消費者協会共催)単独、八戸グランドホテル、2015年2月28日
- ・ 福田進治「消費者教育の課題と展望」消費者教育フォーラム(弘前大学地域未来創生センター・青森県消費者協会共催)弘前大学、2015年3月29日

[討論]

- ・ Shinji Fukuda 「Yoshifumi Ozawa, John Stuart Mill on Public Expenditure: Focusing on the Military Expenditure of Britain in the Nineteenth Century」第47回経済思想研究会、単独、東北大学、2014年4月20日
- ・ Shinji Fukuda 「Neri Salvadori & Rodolfo Signorino, Patterns of Growth, International Trade, and the Stationary State: A Comparative Appraisal of the Malthusian and Ricardian Perspectives」International Ricardo Conference、単独、沖縄県男女共同参画センター、2015年3月7日

(4)学外集中講義など

- ・ 第16回市民講座(核燃・だまっちゃおられん津軽の会)「青森県と核燃マナー-青森県経済の現状と脱・核燃料サイクルの課題-」津軽保健生協、2014年9月4日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・ 基盤研究(A)「リカードウが経済学に与えた影響とその現代的意義の総合的研究」(研究分担者)平成22～26年度
- ・ 基盤研究(B)「経済思想の受容・浸透過程に関する実証研究：人々は経済学をどのように受け入れたか」(研究分担者)平成22～26年度
- ・ 基盤研究(C)「日本のリカード研究と欧米のリカード研究の比較検討」(研究代表者)平成22～26年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- ・ 第24回マルサス学会大会、関西大学、2014年6月27日～28日

山本 康裕

(1)現在の研究テーマ

- ・ 金融政策、金融市場と経済成長との関係

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・ 山本康裕「銀行業の寡占化は金融政策に如何なる影響をもたらすか?」『金融経済研究』Vol.37、pp.41-60、2015年、日本金融学会

小谷田 文彦

(1)現在の研究テーマ

- ・ 地域経済の経済分析

(2)著書、論文、その他

[その他]

- ・恩田睦、小谷田文彦「地方鉄道の活性化と地域社会の役割」『弘前大学人文学部戦略的経費（地域貢献社会連携）報告書』、pp.63-76、共著、2014年3月
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- ・フランス共和国、海外派遣教育プログラム、2014年9月27日～2014年10月4日
 - ・フィンランド共和国、グローバル人材育成事業、2015年1月16日～2015年1月23日

金 目 哲 郎

(1)現在の研究テーマ

- ・地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・金目哲郎「公立小学校の学校図書整備の予算に関する一考察」『人文社会論叢—社会科学篇』第32号、pp.81-93、単著、2014年8月
- ・金目哲郎「学校図書等教材整備のための支出の地域間格差の検討」『弘前大学経済研究』第37号、pp.13-26、単著、2014年12月
- ・金目哲郎「財政民主主義からみた住民監査請求制度の実態的側面の検討」『弘前大学大学院地域社会研究科年報』第11号、pp.105-119、単著、2015年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・金目哲郎「財政民主主義からみた住民監査請求制度の現状と課題」、日本地方財政学会第22回大会、単独、福島大学、2014年5月25日

○公共政策講座

児 山 正 史

(1)現在の研究テーマ

- ・公共サービスの市場（準市場）としての学校選択の効果・影響、地方自治体の行政評価

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・児山正史「準市場の優劣論とイギリスの学校選択の公平性・社会的包摂への影響(1)」『人文社会論叢—社会科学編』第32号、pp.95-110、単著、2014年8月
- ・児山正史「準市場の優劣論とイギリスの学校選択の公平性・社会的包摂への影響（2・完）」『人文社会論叢—社会科学編』第33号、pp.47-67、単著、2015年2月

平 野 潔

(1)現在の研究テーマ

- ・刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- ・平野潔「過失犯における違法性の認識の可能性」井田良ほか編『川端博先生古稀記念論文集 [上巻]』、pp.387-409、単著、2014年10月

[その他]

- ・平野潔「ストーカー行為等の規制等に関する法律2条1項1号にいう『見張り』をする行為、『押し掛ける』行為の意義—東京高裁平成24・1・18判時2199号142頁—」『刑事法ジャーナル』第40号、pp.140-144、単著、2014年5月
- ・平野潔「犯人の死亡と犯人隠避罪の成否」山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅱ各論 [第7版]』、pp.254-255、単著、

2014年8月

(3)研究発表、講演

[講演]

・平野潔「裁判員の“負担”の意味」青森県の裁判員裁判—これまでの5年間を振り返る—、単独、弘前大学人文学部校舎多目的ホール、2014年11月1日

・平野潔・河合正雄「地域の防犯を考える」地域未来創生塾、共同、弘前文化センター第3会議室、2014年10月8日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

・「青森県の裁判員裁判—これまでの5年間を振り返る—」弘前大学、2014年11月1日

長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

・独占禁止法、フランチャイズ・システムの法規制、経済法

(2)著書、論文、その他

[論文]

・長谷河亜希子「TPP問題」『法の科学』第45号、pp.113-116、単著、2014年7月

[その他]

・長谷河亜希子「手数料受領行為強要等差止請求事件（セブン・イレブン事件）東京高裁判決平成24年6月20日」『公正取引』第763号、pp.54-60、単著、2014年5月

・長谷河亜希子「事業者の意義（第1版の改訂版）」「事業者団体の意義・禁止行為」「取引条件等の差別的取扱い」（第1版の改訂版）土田和博・岡田外司博編『演習ノート経済法 第2版』法学書院、pp.12-13、pp.51-52、pp.82-84、単著、2014年10月

・長谷河亜希子「日本もフランチャイズ法制で加盟店の保護を」週刊金曜日1018号、pp.24～25、単著、2014年11月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

・長谷河亜希子「フランチャイズ本部の濫用行為とその法規制」日本経済法学会、単独、富山大学、2014年10月18日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

・韓国（ソウル）、不公正な取引方法等に関するヒアリング、2014年9月10日～14日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

・基盤研究（C）「日米におけるフランチャイズ契約規制に関する法的規制」（研究代表者）平成25～27年度

・基盤研究（C）「労働組合の現代的意義と労働団体法理の再構築に関する実証的理論研究」（研究分担者）平成25～27年度

・基盤研究（A）「経済法、比較・国際経済法とフェアコンミュー：自由、公正、責任の競争法秩序」（研究分担者）平成26～28年度

吉村 顕真

(1)現在の研究テーマ

・日米不法行為法の研究、日米救済法の研究、日米相続法の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

・「遺産債務相続における相続人救済の歴史的考察—単純承認本則のもとでの相続人の責任制限」『人文社会論叢—社会科学篇』第33号、pp.69-103、2015年

(4)学外集中講義など

・弘前大学ドリーム講座「憲法と法律の違い」八戸西高校、2014年10月1日

成 田 史 子

(1)現在の研究テーマ

- ・企業組織再編と労働法

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・成田史子「労働者の多様化と従業員代表制のあり方 国際比較も含めて」野川忍・山川隆一・荒木尚志・渡邊絹子編著『変貌する雇用・就労モデルと労働法の課題』pp.241-261、単著、2015年、商事法務

[論文]

- ・成田史子「ドイツにおける企業組織再編と雇用保障」青森中央学院大学地域マネジメント研究所研究年報 10号、pp.202-213、単著、2014年
- ・成田史子「ドイツ労働法古典文献研究会(第5回) 事業譲渡時の労働関係自動移転ルール形成過程における議論状況」季刊労働法 245号、pp.249-262、単著、2014年

[その他]

- ・成田史子「書評 藤内和公著『ドイツの雇用調整』」日本労働研究雑誌、56巻6号、PP.77-79、単著、2014年
- ・成田史子「障害に対する配慮の合意と会社分割による承継の有無－阪神バス事件」Jurist臨時増刊 平成26年度重要判例解説、1479号、pp.237-238、単著、2015年

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・成田史子「会社分割と労働法上の問題」企業変動研究会、単独、明治大学、2014年9月
- ・成田史子「会社分割と労働契約関係の承継」リサーチセンター研究会、単独、東京大学、2015年2月

(4)学外集中講義など

- ・2014年度非常勤講師「労働法・政策論」弘前大学 地域社会研究科（博士課程後期）2014年4月～2015年3月
- ・弘前大学ドリーム講座「ブラック企業に負けないための法知識」青森南高校、2014年11月14日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究 (B)「企業組織再編時の労働者保護を目的とした法規範の構築方法」(研究代表者) 2013～2015年度
- ・基盤研究 (A)「北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究－社会・経済・法的アプローチ」(研究分担者) 2012～2014年度
- ・基盤研究 (B)「ハイブリッド型労働法における実体規制・手続規制と労使関与とメカニズム」(研究分担者) 2014～2016年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・労働問題リサーチセンター「労働法規制の実効性をめぐる現代的課題」(委託研究会委員) 2014年7月～2015年3月

河 合 正 雄

(1)現在の研究テーマ

- ・受刑者の権利

(2)著書、論文、その他

[その他]

- ・河合正雄「2008年ヒト受精及び胚研究に関する法律－ヒト胚等を用いた先端研究を中心に－」『慶應法学』29号、pp.179-183、単著、2014年4月
- ・河合正雄「若手研究者が読み解く〇〇法Part2 ⑬「憲法・統治」－安保法制懇報告書の検討」『法と民主主義』489号、pp.48-51、単著、2014年6月
- ・河合正雄「コメント:受刑者選挙権訴訟について－大阪高裁2013(平成25)年9月27日判決－」『国際人権』25号、pp.67-70、単著、2014年10月
- ・河合正雄「国際人権法主要国内判例書誌情報(1)」『国際人権』25号、pp.149-155、単著、2014年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・河合正雄「仮釈放の可能性のない無期刑－ヴィンター判決－」ヨーロッパ人権裁判所判例研究会、単独、早稲田大学、2014年6月1日

[講演]

- ・平野潔・河合正雄「地域の防犯を考える」地域未来創生塾、共同、弘前文化センター第3会議室、2014年10月8日
- (4)学外集中講義など
- ・2014年度夏季集中講義「教育と憲法（日本国憲法）」電気通信大学、2014年9月8～10日、18日
 - ・2014年度「卒業研究指導」、放送大学、2014年4月～12月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- ・若手研究（B）「国際人権法の視点を採り入れた受刑者の実効的な権利保障に向けて」（研究代表者）平成26～27年度

白石 壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- ・農村の社会規範の変化、移住・移動者とホーム（故郷、家郷意識形成）、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク（社会調査）論など

(2)著書、論文、その他

[著書]

- ・椎野若菜・白石壮一郎編『フィールドに入る』（100万人のフィールドワーカーシリーズ第1巻）、共編著、2014年6月、古今書院
- ・白石壮一郎「ミシャキ家の居候—アフリカ農村調査での人づきあい」pp.12-31、単著、椎野・白石編上掲書

[その他]

- ・白石壮一郎「墓穴を掘る」（コラム）、FENICSメルマガVol.5、単著、2014年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- ・白石壮一郎「学寮における生活空間の読み替えと共同性の創出についての事例研究」、単独、F研（フィールド研究会）、弘前大学人文学部、2014年7月
- ・白石壮一郎『集落点検』記—三沢市根井地区での調査」、単独、「応答の人類学」第15回研究会（日本文化人類学会課題研究懇談会）、京都大学東南アジア研究所稲盛財団記念館、2014年9月27日

[コメンテーター]

- ・“Bodily Power at Work in Everyday Practices”, A Panel in ISA RC54 The Body in the Social Sciences, XVIII ISA (International Sociological Association) World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama, Japan, 15th July, 2014

(4)学外集中講義など

- ・弘前大学ドリーム講座「アフリカから青森まで—コミュニティの調査からわかる地域と社会」青森北高校、2014年9月2日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- ・若手研究（B）「東アフリカにおける非自発的移民のネットワークと新たな地域開発」（研究協力者、代表：内藤直樹）、2013～2015年度

(7)共同研究、受託研究など

- ・青森県「学生発・未来を変える挑戦」プロジェクト課題「小規模アグリビジネスのもたらす生業（なりわい）の可能性」（指導教員）
- ・青森県受託事業（地域社会研究科受託研究）「集落地域の実態把握と住民主体の計画・目標づくりに関する研究」（調査協力）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- ・津軽地域づくり研究会&地域未来創生セミナージョイント企画「中山間地域への移住と自給的農林業の可能性について」（講師：相川陽一）、弘前大学人文学部、2015年2月5日